

高崎市文化財調査報告書第272集

貝沢・天神遺跡

— 宅地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2010

高崎市教育委員会

貝沢・天神遺跡

— 宅地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2010

高崎市教育委員会

例 言

1. 本書は、宅地建設に伴う貝沢・天神遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本遺跡は、群馬県高崎市貝沢町字大神919番地1ほかに所在している。
3. 本調査および整理作業は、高崎市教育委員会が委託契約を締結した有限会社毛野考古学研究所の協力を得て実施した。
4. 発掘調査の体制は、以下のとおりである。
高崎市教育委員会 田川一郎、須田奈保子、滝沢匡
有限会社毛野考古学研究所 浅間陽、柴田洋孝、小出拓磨
5. 発掘調査・整理作業は、平成22年4月7日～平成22年7月30日の期間で実施した。
6. 本遺跡は、高崎市教育委員会の遺跡番号で467である。
7. 本書の執筆については、Iを田川、それ以外を柴田が行った。
8. 本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査・整理作業に携わった方々は以下のとおりである。

【発掘調査】

井口ヒロ子 狩野友好 鈴木若葉 森山恵子

【整理作業】

小出拓磨 永井祐二

10. 発掘調査の実施から報告書の刊行に至る過程で下記の機関のご協力を賜った。記して感謝申し上げます。
(順不同・敬称略)
株式会社東海地所 ORIGIN測地設計 カネコハウス有限公司 株式会社スカイサーベイ
株式会社スマヤ測量 山下工業株式会社
坂口一 安生素明 曲澤年雄

凡 例

1. 挿入中の北方位は座標北を、断面水準線数値は海拔標高を示す。座標は世界測地系を用いた。
2. 遺構図の縮尺については、図中にスケールを付して表示した。
3. 遺構覆土および土器の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修 2006）に従っている。
4. 本書掲載の第1図は高崎市発行1/2,500「高崎市都市計画基本図」、第2図は国土交通省国土地理院発行『宇都宮』・『長野』1/200,000を50%縮小、第3図は国土交通省国土地理院発行1/25,000「前橋」を使用した。

目次

例言・凡例	1. 水田	6
H次・図版目次・表目次・写真図版目次	2. 足跡列・耕作痕	6
I 調査に至る経緯	3. 溝跡	6
II 地理的・歴史的環境	4. 窪み列	7
III 調査の方法と経過	VI まとめ	12
IV 基本層序	写真図版	
V 検出された遺構	抄録・奥付	

図版目次

第1図 調査区域図	1	第7図 土層断面図	9
第2図 遺跡の位置	2	第8図 窪み列・溝詳細図	10
第3図 遺跡の位置と周辺の遺跡	3	第9図 土層断面図	10
第4図 基本層序	5	第10図 窪み列・畦畔詳細図	11
第5図 調査区全体図・エレベーション図	8	第11図 土層断面図	11
第6図 窪み列・溝詳細図	9		

表目次

第1表 周辺の遺跡一覧表	4
--------------	---

写真図版目次

PL.1 空撮（南東より）	3号窪み列（南東より）
調査区全景（南より）	溝・窪み列セクション（北西より）
調査区全景（北より）	PL.3 4号窪み列（南東より）
調査区南側畦畔（南より）	4号窪み列セクション（北西より）
調査区北側畦畔（南東より）	溝・窪み列全景（南西より）
PL.2 水口（南より）	足跡列・耕作痕（南東より）
畦畔断ち割り（南より）	1号トレンチ基本層序（西より）
1号窪み列（南東より）	1号トレンチAs-B堆積状況（西より）
1号窪み列セクション（北西より）	重機掘削（南より）
1号溝・2号窪み列（南東より）	作業風景（北西より）
2・3号溝セクション（西より）	

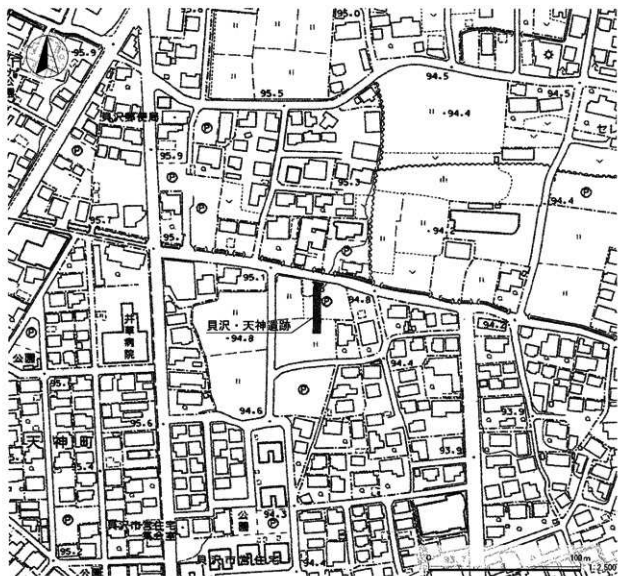
I 調査に至る経緯

平成22年1月、株式会社東海地所（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に宅地造成工事予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、原会地周辺の貝沢町西沖遺跡等で平安時代水田遺構が検出されており、当該地にも及ぶ可能性が高いことから、試掘調査による確認を実施し工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年1月28日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年2月23日に工事予定地の試掘調査を実施し、平安時代の水田遺構を確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、工事の計画変更は不可能ということなので、道路建設部分に関して記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、有限会社毛野考古学研究所に委託して実施することとなり、平成22年4月1日付けで高崎市長・事業者・毛野考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成22年4月1日付けで事業者と毛野考古学研究所の二者で発掘調査委託契約が締結された。



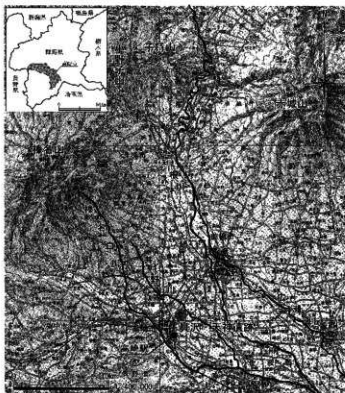
第1図 調査区域図

II 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

貝沢・大神遺跡が所在する高崎市は群馬県のほぼ中央に位置し、北西に榛名山、北に小野子山と子持山、北東に赤城山を望む。市街地の地形は、市北部に形成されている相馬ヶ原扇状地の南に位置している前橋台地、同台地の西に段丘と谷底平野からなる井野川低地帯、井野川低地帯と烏川に挟まれた高崎台地によって形成されている。史跡箕郷城跡周辺を水源とする井野川の右岸に形成される井野川低地帯と高崎台地の境界は、柴崎町から北側では段差がわずかになり、不明瞭となる。

本遺跡は、その高崎台地と井野川低地帯の境界付近に位置している。遺跡地の現況は水田であるが、周辺は民家と商業店舗が多く、市街地化しており、自然の地形はほぼ失われているものと思われる。遺跡地の現地表面は標高93.8mを測り、遺跡地周辺は北西から南東に向けてごくわずかながら傾斜する。また、遺跡地周辺には水田開発に伴って造られた堰が複数確認でき、地形に沿って北西から南東方向に向けて走行している。



第2図 遺跡の位置

2. 歴史的環境

本遺跡が所在する井野川低地帯・高崎台地には多くの遺跡が点在している。以下、時期別に述べることにする。
縄文時代 本遺跡周辺では縄文時代の遺構は確認されていない。

弥生時代 弥生時代の遺構が確認された遺跡は、浜尻遺跡(8)・稲荷町I遺跡(17)・上大類北宅地遺跡(23)などが挙げられ、浜尻遺跡・稲荷町I遺跡では弥生時代中期、上大類北宅地遺跡では弥生時代後期の竪穴住居跡が確認されている。また、食糧生産(以下、牛廐)遺跡も本遺跡周辺では確認されており、井野川左岸の小八木I遺跡(25)・土地改良事業に伴う日高遺跡群(28)・新保遺跡I・II(29)ではAs-C層下の水田が検出された。水田に関連するとみられる水路から、弥生時代後期の土器が出土しており、当該期には生産活動が行われていたことが判明している。特に、日高遺跡群における生産活動は平安期まで継続して行われ、生産地帯として安定していた場所であることが窺える。

古墳時代 古墳時代の遺跡数は弥生時代に比べると一段と多くなる。竪穴住居跡が確認されている浜尻遺跡(8)・稲荷町I遺跡(17)・上大類薬師遺跡(21)・上大類北宅地遺跡(23)などに加え、井野川遺跡(7)・貝沢I遺跡(9)では土器や石製模造品が一括して出土しており、祭祀遺構であることが想定されている。集落に伴う墓域については、貝沢柳町遺跡(20)では古墳時代前期の周溝墓と5世紀前半のものとされる埴輪棺が山上している。ほかにも、真福寺古墳(A)では表探資料からB種横ハケの円筒埴輪片が確認されており、5世紀代の築造と考えら



第3図 遺跡の位置と周辺の遺跡

れている。また、6世紀後半に築造された浜尻天平山古墳(B)や五雲神社古墳(C)などの前方後円墳も本遺跡周辺には所在している。古墳時代における遺跡分布の特徴として、井野川右岸の微高地に集落遺跡や古墳が所在している点が挙げられる。また、当該期の生産遺跡は大八木屋敷遺跡(2)・下小島町頭Ⅱ遺跡(3)・間屋町西遺跡(6)・飯塚大道東遺跡(11)などが挙げられ、前述した集落遺跡の西側で多く確認されている。全体像は不明であるが、井野川右岸において集落域と生産域が東西で区分けされていた可能性が指摘できる。大八木屋敷遺跡・下小島町頭Ⅱ遺跡では、As-C層下の古墳時代初頭とされる水田区画が検出されている。井野川右岸では、井野川左岸に比べて同じAs-C層下の水田においても、生産活動の開始に若干の時期差があるものと思われる。

奈良・平安時代 奈良・平安時代における集落遺跡の分布は、古墳時代のそれと比べるとやや散在しているように思われる。大八木屋敷遺跡(2)・下小島遺跡(5)・飯塚十二前遺跡(15)など古墳時代には生産域であったと考えられる地域にも集落が展開されているが、遺跡の確認数が少ないため、間屋町より東側の明確な集落の展開状況は不明である。本遺跡を含め、確認されている当該期の遺跡のほとんどはAs-B層下の水田遺構である。大八木水田遺跡(4)・下小島遺跡(5)・飯塚新田西Ⅱ遺跡(10)を含む飯塚町一帯・日光町遺跡(19)・上大類八反田遺跡(22)など、井野川右岸の広い範囲で水田開発が行われていたことが判明している。大八木水田跡においては水畦畔や水路を検出し、条里制による地割りが行われていたと考えられる。周辺の水田遺構についても畦の走行方位が揃っている点のみられ、条里制の地割りを窺うことが出来ると思われる。一方、井野川左岸でも小八木Ⅱ遺跡(26)・井野川矢ノ上遺跡(27)・日高遺跡群(28)などでAs-B層下の水田遺構が確認されている。日高遺跡群については前述したように、弥生時代後期から水田開発が行われており、平安期の水田跡においては、広い範囲で条里制による地割りが行われていたことが判明している。

No.	遺跡名	主な時期・性格	文献
1	貝沢・天神遺跡	平安 (As-B下) 水田	本報告
2	大八木屋敷遺跡	古墳 (As-C上下) 水田、奈良～平安集落・官衙	『大八木屋敷遺跡』1996 群馬県埋蔵文化財調査事業団
3	下小島町頭Ⅱ遺跡	古墳 (As-C下・Iir-FAD) 水田	『下小島町頭Ⅱ遺跡』1996 高崎市遺跡調査会
4	大八木水田遺跡	平安 (As-B下) 水田	『大八木水田遺跡』1979 高崎市教育委員会
5	下小島遺跡	平安 (As-B下) 水田、奈良・平安集落	『下小島遺跡』1973 群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか
6	間編町西遺跡	古墳後期 (Iir-FAD) 水田、平安 (As-B下) 水田	
7	井野川遺跡	古墳時代後期遺構? (祭祀遺構?)	『高崎市井野川遺跡』1970 群馬県教育委員会
8	浜尻遺跡	弥生中期～古墳集落、弥生中期～後期円墳?	『浜尻遺跡』1981 高崎市教育委員会
9	貝沢Ⅰ遺跡	古墳後期祭祀遺構? (遺構未確認)	『高崎市内意懸緊急埋蔵文化財発掘調査報告書』1994 高崎市教育委員会
10	飯塚新田西Ⅱ遺跡	平安 (As-B下) 水田	『飯塚新田西Ⅱ』1997 高崎市遺跡調査会
11	飯塚大道東遺跡	古墳後期 (Iir-FAD) 水田、平安 (As-B下) 水田	『飯塚大道東遺跡』1996 高崎市遺跡調査会
12	飯塚西金井遺跡	平安 (As-B下) 水田	『飯塚西金井遺跡』1994 高崎市遺跡調査会・高崎市教育委員会
13	飯塚東金井遺跡	平安 (As-B下) 水田	『飯塚東金井遺跡』1993 高崎市教育委員会
14	飯塚東金井Ⅱ遺跡	平安 (As-B下) 水田	『飯塚東金井Ⅱ遺跡』1993 高崎市遺跡調査会
15	飯塚十二筋遺跡	平安 (As-B下) 水田、奈良・平安集落	『飯塚十二筋遺跡』1998 高崎市教育委員会
16	飯塚大苗代遺跡	平安 (As-B下) 水田	『飯塚大苗代遺跡』1997 高崎市遺跡調査会
17	稲荷町Ⅰ遺跡	弥生中期、古墳後期集落、弥生中期祭祀遺構	『稲荷町Ⅰ遺跡』1992 高崎市遺跡調査会
18	飯王Ⅰ遺跡	平安 (As-B下) 水田	
19	日光町遺跡	平安 (As-B下) 水田	『日光町Ⅰ・Ⅱ遺跡』1991 高崎市教育委員会
20	貝沢神町遺跡	古墳前期円墳、5世紀前半? 埴輪埴土墓、奈良・平安集落	『貝沢神町遺跡』1986 高崎市教育委員会
21	上大類藤原遺跡	古墳～奈良・平安集落	『上大類藤原遺跡』1985 高崎市遺跡調査会
22	上大類八反田遺跡	平安 (As-B下) 水田	
23	上大類北宅地遺跡	弥生後期～奈良・平安集落、弥生・古墳周溝墓	『上大類北宅地遺跡』1983 高崎市教育委員会
24	天田・川押遺跡	奈良・平安集落、平安 (As-B下) 水田	『天田・川押遺跡』1983 高崎市教育委員会
25	小八木Ⅰ遺跡	弥生後期 (As-C下) 水田、集落	『小八木遺跡調査報告書(Ⅰ)』1979 高崎市教育委員会
26	小八木Ⅱ遺跡	平安 (As-B下) 水田	『小八木遺跡(Ⅱ)』1980 高崎市教育委員会
27	井野矢ノ上遺跡	平安 (As-B下) 水田	『井野矢ノ上遺跡』1994 高崎市遺跡調査会
28	日高遺跡群	弥生後期 (As-C下)～平安 (As-B下) 水田	『日高遺跡』1980 高崎市教育委員会ほか
29	新保遺跡Ⅰ・Ⅱ	弥生後期 (As-C下) 水田、弥生後期～平安集落	『新保遺跡Ⅰ』1996 群馬県埋蔵文化財調査事業団ほか
A	高塚寺古墳	円墳 (詳細不明)	
B	麻尻天台山古墳	6世紀後半前方後円墳 (木調査)	『上毛古墳総覧』1938 群馬県
C	五雲神社古墳	6世紀後半前方後円墳 (銅函出土)	『上毛古墳総覧』1938 群馬県
D	壺天山古墳	5世紀後半～6世紀前半円墳? (墳丘削平)	『上毛古墳総覧』1938 群馬県
E	稲町Ⅱ遺跡	円墳	『稲町遺跡』1996 高崎市教育委員会

第1表 周辺の遺跡一覧表

III 調査の方法と経過

1. 調査の方法

表土除去にあたっては、水田面である黒色土層(V層)の上部に堆積するAs-B軽石(IV層)上面まで、垂機を用いて掘り下げることとした。その後は人力によるAs-B軽石の除去を行い、遺構確認に鉤籠、精査には移植ゴテを主に用いた。確認された遺構は、いずれも調査区外に拡がるため、埋没状態を調査区の壁面セクションにて観察した。また、畦畔については断ち割りを行い、構築状態の確認を行った。

図面・写真による記録は、上層断面、完掘状況などの各段階で行った。遺構断面図は縮尺1/20を基本として手尖測で対応、平面図についてはトータルステーションを用い、整理調査において任意の縮尺に加工した。写真撮影には、35mm白黒ネガ、35mmカラーリバーサルフィルム、デジタルカメラを用いた。

2. 調査の経過

現地での発掘調査は、平成22年4月7日～同年4月19日の間で実施した。

4月7日：GPSによる基準点測量、および測量用基準杭の打設を行う。重機、仮設トイレの搬入を行う。

調査区東側から、重機による表土掘削を開始し、本日で表土掘削は終了。

4月8日：作業員を動員して調査区の北側より籾簾・移植ゴテによるAs-B軽石の除去を行い、As-B層下水田の調査を開始する。

4月9日：As-B軽石の除去を行う過程で、調査区の北側より4mほど南に下ったところで小ビットが帯状に広がっているのを確認（1号窪み列）。

4月12日：降雨のため、現場における作業は中止となる。

4月13日：引き続きAs-B軽石の除去を行い、新たに溝（1号溝）と、窪み列（2・3号窪み列）を確認。写真撮影を行う。

4月14日：新たに調査区の南側で窪み列（4号窪み列）と、畦畔とみられるわずかな高まりを確認。

4月15日：空撮を行う。また、各遺構の写真撮影も行う。

調査区の平面測量を行うと同時に、基本層序確認のための断ち割り作業を行う（1号トレンチ）。

4月16日：基本層序のほかに、畦畔・窪み列についても断ち割り作業を行い、堆積状況の確認を行う。

各遺構の写真撮影を行う。調査区平面図、セクション図の作成も行う。

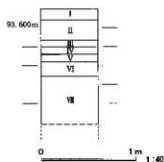
本日で作業員による発掘作業は終了し、器材の撤収も行う。

4月19日：窪み列・畦畔などのエレベーション図の作成を行い、発掘調査現場における作業は終了となる。

IV 基本層序

調査区の南東隅において、表土から遺構確認面以下に至るまでの堆積状況を確認するため、トレンチを設定・掘削し、標準十層を観察・記録した。層序については以下の通りである。

現地表面の水田耕作土の下層には中世以降における水田耕作土とみられる上が厚く堆積しており、長期間水田耕作が行われていたことが窺える。わずかではあるがI～III層から土師器の小片も出土している。As-B純層（浅間B軽石：1108年降下）は調査区の全面で検出され、6～10cmほど堆積していた。基本層序確認のため、As-B層下水田跡（V層）の下層遺構（Hr-FA層下水田跡）の検出を試みたが、明確にHr-FA層であると判断される層は確認できず、下層の水田も確認できなかった。おそらく、耕作による攪拌を受けているため、水田の土とHr-FA層が混在してしまったものと思われるが、VII層がそれに当たるものかは不明である。また、さらに下層の確認を試みたが、湧水が著しくなり下層の確認は困難であると判断し掘削を停止した。



第4図 基本層序

- I層 褐灰色土：表土。しまり、粘性とも弱い。近現代における水田耕作土。
- II層 褐色土：As-A混入土。しまりやや弱く、粘性あり。江戸以降における水田耕作土か。
- III層 黒褐色土：As-B混入I。しまりやや強く、粘性弱い。中世以降における水田耕作土か。
- IV層 暗褐色土：As-B純層。しまり弱く、粘性なし。
- V層 黒色土：水田跡。しまり、粘性強い。平安朝における水田耕作土。
- VI層 黒褐色土：しまり、粘性強い。斑鉄あり。
- VII層 黒褐色土：しまり、粘性強い。斑鉄VI層より多い。ただし、VII層は部分的に堆積。
- VIII層 灰黄褐色土：しまりやや強く、粘性強い。幅1～5mm礫5%、砂5%。

V 検出された遺構

今回の調査において検出された遺構は大きく二種類に分かれる。一つはAs-B降下以前の水田跡(耕作痕含む)と、もう一つはAs-B降下以降に水田面に覆り込まれた遺構である。以下、As-B降下以前の遺構については1・2で、As-B降下以降の遺構については3・4で述べることとする。

1. 水田 (遺構: 第5図、PL1・2)

残存状況: 水田跡の残存状態は良好で、攪乱による破壊はごく一部のみであった。As-Bの一次堆積によって埋没しており、一次堆積層(IV層)は6~10cm程の堆積が確認された。**地形:** 水田面は北西から南東に向かって緩やかに傾斜する。最高位は93.40m、最低位は93.28mである。畦畔: 南北3条、東西4条が検出された。南北の畦畔2・4は、ほぼ南北方向に走行しているが、畦畔7に関してはN-48°-Eと北東方向に大きく傾いている。東西の畦畔は、畦畔1を除いて南北の畦畔に比べて若干の傾きがあるように見受けられる。畦畔3・5はN-60°~78°-Wを指す。畦畔6は、大きく傾く畦畔7に直行するようにN-48°-Wを指している。**区画:** 8区画以上と考えられるが、全容が把握できる区画はない。調査区の南側は長方形に区画されているものと思われるが、調査区の北側は斜方向の畦畔により区画が変形している。**水口:** 東西の畦畔1で確認された。畦畔1の全体像は判明しないが、一边の東寄りには水口は設けられており、幅は24cmである。流水方向は、地形の傾斜からすると北から南に向かって流れていたものと思われる。**水田面の状態:** 全体的になだらかだが、部分的に凹凸も見受けられる。水田耕作土は黒色粘質土で、粘性は強い。足跡列・耕作痕が確認された。**水路:** 明確に水田耕作に伴うとみられる溝跡は検出されなかった。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 埋没土の状態から、As-B降下直前の時期に帰属すると考えられる。

2. 足跡列・耕作痕 (遺構: 第10図、PL・3)

足跡列

位置: 調査区中央部よりやや南側に位置する。**規模:** 残存長22~26cm、幅10~15cm。**残存深度:** 確認面からの深さ2~5cmである。**走行方向:** N-61°-E。**埋没状態:** As-Bの一次堆積によって埋没している。**時期:** 埋没土の状態から、As-B降下直前の時期に帰属すると考えられる。

耕作痕

位置: 調査区北西端と中央部よりやや南側で3箇所が確認された。**規模:** 一単位の長さは8~18cm、幅は8~20cmである。**残存深度:** 確認面からの深さ2~5cmである。**埋没状態:** いずれもAs-Bの一次堆積によって埋没している。**時期:** 埋没土の状態から、As-B降下直前の時期に帰属すると考えられる。いずれも連続的な掘削の痕跡がみられ、動き込みによるものと考えられる。

3. 溝跡

1号溝 (遺構: 第7図、PL・2)

位置・形態: 調査区中央部よりやや北側に位置する。南東-北西方向へ直線的に走行し、調査区外に延びる。断面形は弧状を呈する。**重複:** 2・3号溝、2号窪み列と重複し、2号窪み列が古く、次いで1号溝、2・3号溝の順となる。**規模:** 残存長5.60m、幅44~66cm。**残存深度:** 確認面からの深さ5~10cmである。**長軸方位:** N-65°-W。**埋没状態:** As-Bを多量に含む暗褐色土を主体とし、自然堆積と推定される。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 埋没土の状態から、As-B降下後の時期に帰属すると考えられる。

2号溝：(遺構：第6・8図、P.L. 2)

位置・形態：調査区中央部よりやや北側に位置する。東-西方向へほぼ直線的に走行し、調査区外に延びる。調査区東壁付近で北東方向へやや屈曲する。断面形は弧状を呈する。重複：1号溝、1号窪み列と重複し、1号窪み列が古く、次いで1号溝、2号溝の順となる。規模：残存長4.69 m、幅24～42cm。残存深度：確認面からの深さ4～11cmである。長軸方位：N-80°-E。埋没状態：黒褐色土を主体とし、As-Bをラミナ状に含むことから水性堆積と考えられる。遺物：出土しなかった。時期：埋没土の状態から、As-B降下後の時期に帰属すると考えられる。

3号溝：(遺構：第6・8図、P.L. 2)

位置・形態：調査区中央部よりやや北側に位置する。東-西方向へほぼ直線的に走行し、調査区外に延びる。調査区東壁付近で北東方向へやや屈曲する。断面形は弧状を呈する。重複：1号溝、2号窪み列と重複し、2号窪み列が古く、次いで1号溝、3号溝の順となる。規模：残存長4.72 m、幅24～42cm。残存深度：確認面からの深さ5～10cmである。長軸方位：N-84°-E。埋没状態：As-Bを多量に含む黒褐色土を主体とし、自然堆積と推定される。遺物：出土しなかった。時期：埋没土の状態から、As-B降下後の時期に帰属すると考えられる。

4. 窪み列

1号窪み列 (遺構：第6図、P.L.2)

位置・形態：調査区の北側に位置し、北西から南東方向に向けて確認された。直径10～15 cm、深さ10 cm前後を測る小ピットが帯状に広がり、水田耕作土(V層)を掘り込んでいる。幅は1.20～3.51 mを測る。重複：2号溝と重複し、2号溝は本遺構より新しい。走行方位：N-50°-W。埋没土：As-Bを多量に含む黒色土を主体とする。遺物：出土しなかった。時期：埋没土の状態から、As-B降下後の時期に帰属すると考えられる。

2号窪み列 (遺構：第8図、P.L.2)

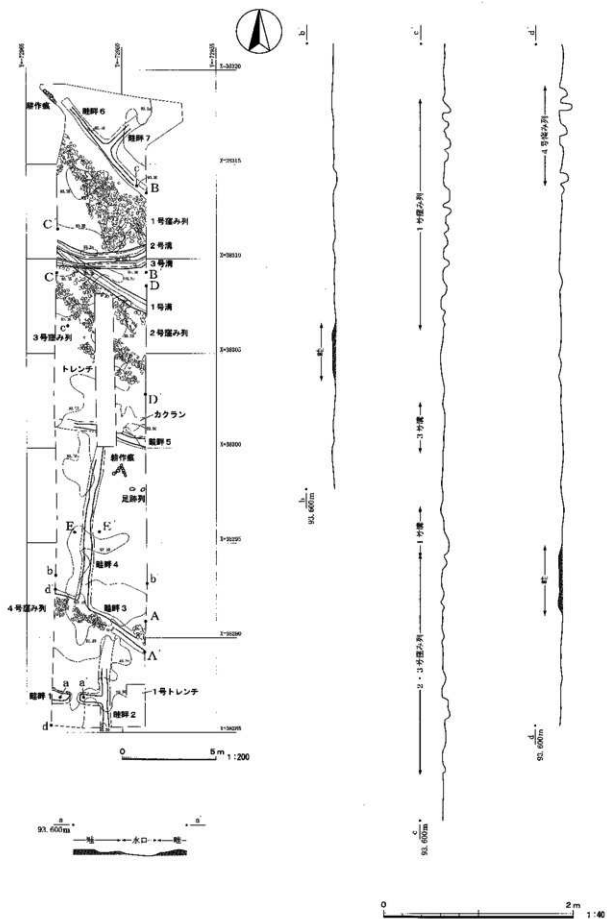
位置・形態：調査区の北側に位置し、北西から南東方向に向けて確認された。1号窪み列と同様に、直径10～15 cm、深さ10 cm前後を測る小ピットが帯状に広がり、水田耕作土(V層)を掘り込んでいる。1号窪み列ほどの密集度はない。幅は80～90 cmを測る。重複：1号溝と重複し、1号溝は本遺構より新しい。走行方位：N-50°-W。埋没土：As-Bを多量に含む黒色土を主体とする。遺物：出土しなかった。時期：埋没土の状態から、As-B降下後の時期に帰属すると考えられる。

3号窪み列 (第8図、P.L.2)

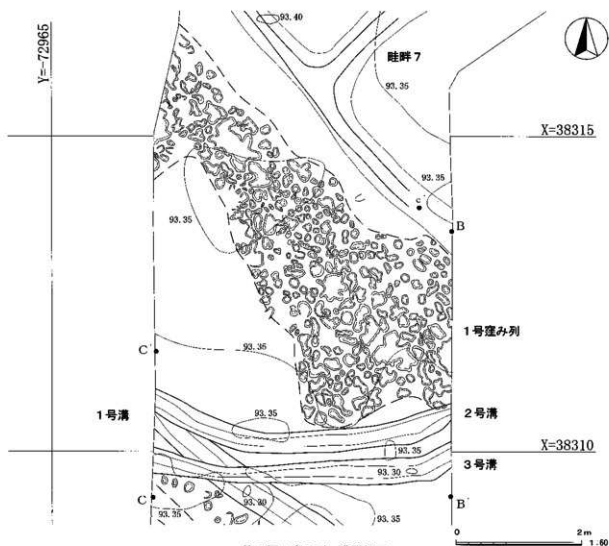
位置・形態：調査区のほぼ中央に位置し、北西から南東方向に向けて確認された。1・2号窪み列と同様に、直径10～15 cm、深さ10 cm前後を測る小ピットが帯状に広がり、水田耕作土(V層)を掘り込んでいる。幅は0.8～1.05 mを測る。主体となる列の南側に、長さ4 m、幅60 cmほどの小規模の列が確認できる。走行方位：N-50°～55°-W。埋没土：As-Bを多量に含む黒色土を主体とする。遺物：出土しなかった。時期：埋没土の状態から、As-B降下後の時期に帰属すると考えられる。

4号窪み列 (第10図、P.L.3)

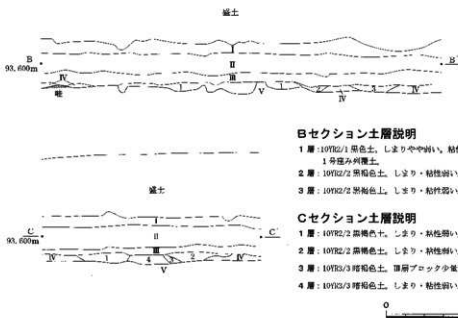
位置・形態：調査区の南側に、北西から南東方向に向けて確認された。1～3号窪み列と同様に、直径10～15 cm、深さ10 cm前後を測る小ピットが帯状に広がるが、途中で途切れる。また、畦畔3(V層)を掘り込んでいる。幅は0.6～1.10 mを測る。重複：畦畔3と重複し、畦畔3より新しい。走行方位：N-72°-W。埋没土：As-Bを多量に含む黒色土を主体とする。遺物：出土しなかった。時期：埋没土の状態から、As-B降下後の時期に帰属すると考えられる。



第5図 調査区全体図・エレベーション図



第6図 窪み列・溝詳細図



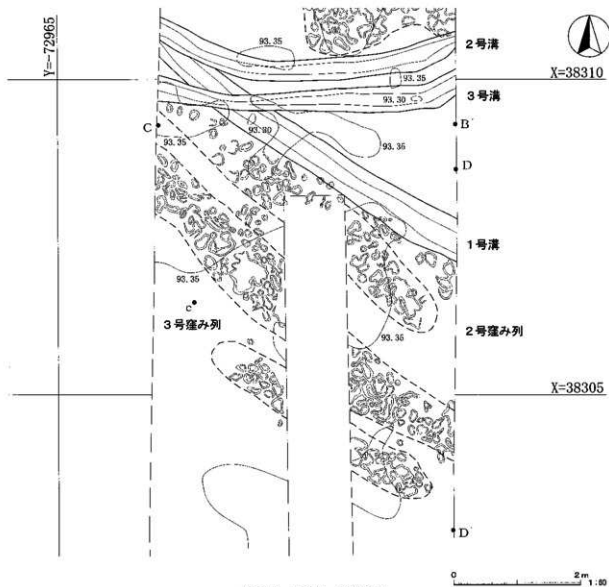
第7図 土層断面図

Bセクション土層説明

- 1層: 10YR2/1 褐色土。しまりや中細い、粘性なし。As-B・10YR5/6 ブロックを多量に含む。1号窪み列覆土。
- 2層: 10YR2/2 赤褐色土。しまり・粘性弱い。As-Bを多量に含む。2号溝覆土。
- 3層: 10YR2/2 赤褐色土。しまり・粘性弱い。As-Bをラミネ状に含む。3号溝覆土。

Cセクション土層説明

- 1層: 10YR2/2 赤褐色土。しまり・粘性弱い。Bセクション3層に同じ。
- 2層: 10YR2/2 赤褐色土。しまり・粘性弱い。Bセクション2層に同じ。
- 3層: 10YR3/3 暗褐色土。塊崩ブロック少量含む。
- 4層: 10YR3/3 暗褐色土。しまり・粘性弱い。As-Bを多量に含む。1号溝覆土。



第8図 窪み列・溝詳細図

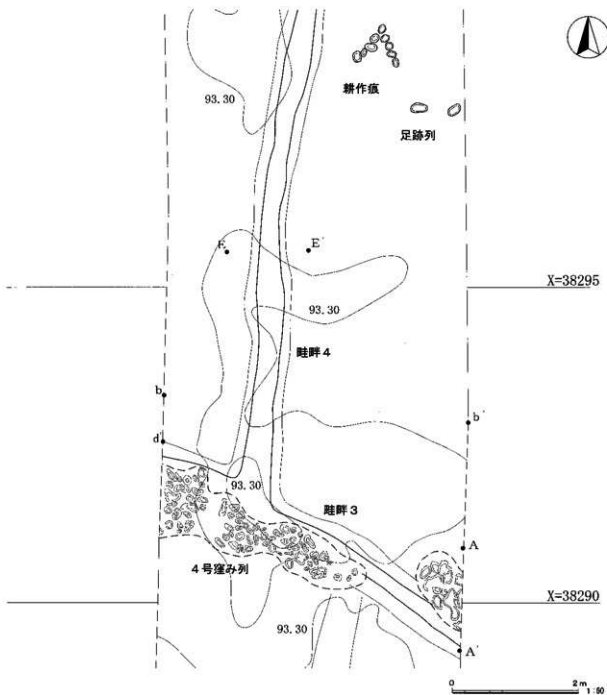


Dセクション土層説明

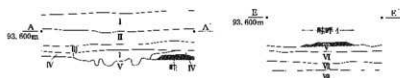
- 1層：101R3/3 暗黒色土。しまり・粘性弱い。As・Bを多量に含む。10YR5/6ブロックを少量含む。1号溝層土。
- 2層：101R2/1 黒色土。しまり・粘性弱い。As・Bを多量に含む。2・3号窪み列層土。



第9図 土層断面図



第10図 窪み列・畦畔詳細図



Aセクション土層説明

1層：10YR2/3 黒褐色土。しまり・粘性弱い。As・Bを多量に含む。II・IV層ブロックを少許含む。
4号窪み列敷土。



第11図 土層断面図

VI まとめ

今回の調査において、As-B層下における平安時代末期の水田遺構を確認することができた。調査区に限られていたため、水田区画の構成や大畦畔などを確認することはできなかったが、東西・南北の小畦畔、水口などを確認することができた。また、As-B層を掘り抜いて水田面にまで到達していた窪み列など、As-B降下以降の水田の在り方を考えさせる遺構も検出されている。以下、貝沢・天神遺跡周辺のAs-B層下の水田遺構の調査事例も踏まえた上で、調査成果を述べることにする。

1. As-B降下以前の水田

平安時代における群馬県西部域のAs-B層下の水田は、条里制の地割りによって東西南北を意識した一町（約109m）四方を一つの区画として、土地区画利用が行われていた。大八木水田遺跡・飯塚新田西Ⅱ遺跡などでは、検出された畦畔や水路から一町四方の区画が想定され、条里制の地割りが井野川右岸でも適用されていたことが証明されている。本調査地は地割りが確認された遺跡からさほど離れておらず、当地区においても地割りが施されていたことは容易に想像できる。実際に検出された遺構に目を向けると、南北畦畔は一部北東方向に傾いているが、畦畔2・4については南北の方位を意識して造られていると思われる。この点については条里制の地割りが反映されていた可能性が指摘できる。しかし、東西畦畔については検出された畦畔のほとんどが南東方向に傾いている。この畦畔の傾きは、当時の地形の制約を受けていたと考えられるが、いずれも調査区外に伸びているため全体像は把握できない。今回の調査において、明確に条里制の地割りが行われていたことを証明することはできなかったが、条里制の影響を受けていたということは十分に考えられる。

As-B降下以前の水田遺構に関して近年問われるのは、当時の利用状況である。平安時代の水田は、耕作されていた田である「見作」と、耕作されていない田である「不作」が混在していたことが戸田芳美氏ら文献史学の観点から明らかとなっている。実際に発掘された水田遺構からその事実を読み取ることは非常に困難であるが、水田面に残された人間の足跡や動物の足跡の在り方、畦の残存状態などによって、水田耕作が行われていたかを推測することは可能であるとされる（高井2006）。本遺跡についても、上記の観点から検出した水田面から当時の耕作状態の把握に努め、水田利用の有無について観察を行うこととなった。今回確認された本遺跡の水田面の状況は、部分的に凹凸は見られるものの、全体的にはなだらかであるように思われ、確認された耕作痕や足跡はわずかであった。しかし、調査範囲に限られていたため、上記の点だけを挙げて水田の利用状況に関して明確なことまで言及することは難しい。今回の調査において水田の利用状況を把握することはできなかったが、今後近隣の調査が行われた際に、水田面の状態を比較・検討できれば、本遺跡の位置づけは十分変わりうると思われる。

2. As-B降下以降の溝と窪み列

天仁元年（1108）に噴出した浅間山の軽石（As-B）は、本遺跡において6～10cm堆積していることが確認された。その堆積層を掘り抜いて平安時代の水田面まで到達している遺構、つまり天仁元年以降の人為的な痕跡とみられる溝跡3条と窪み列4条が確認された。

溝跡は1号溝が古く、北西方向から南東方向に向かって伸びている。走行方位はN-65°-Wと、近接する2号窪み列の走行方位N-50°-Wと類似しており、関連性が窺われる。後述するが、2号窪み列については畦畔との関連性も窺われるため、1号溝も畦畔と関連する可能性が指摘できる。2・3号溝は、2号溝がN-80°-W、3号溝がN-84°-Wと走行方位が類似し、東西方向に並走している。そのため、ほぼ同時期に掘られた可能性も考えられる。確認された3条の溝の中で、2号溝は覆土中のAs-Bがラミナ状に堆積している点から水性堆積

が考えられ、水路として機能していた可能性が指摘できる。調査区の北側を、現在も貝塚塚の一支流である用水路が北西から南東方向に向けて走行しており、東西方向に走行する2・3号溝も用水路として機能していた可能性が考えられるが、水田利用との関連は不明である。

次に、今回の調査でHを引くのは水田面に掘り込まれた窪み列である。周辺遺跡の調査結果を概観すると、大八木水田遺跡でも一部の畦畔、または水口などに本遺跡と類似する円形の掘り込みが確認できるが、明確にAs-B堆積後の痕跡であるかについては報告書内に引記されておらず、大八木水田遺跡の円形の掘り込みが本遺跡の類例であるとは言うには根拠が乏しい。窪み列に関する特徴としては以下のことが挙げられる。

- ①セクションを観察すると、As-Bが堆積した後に掘り込まれたもので、かつAs-B堆積後の耕作土(Ⅲ層)よりも以前に埋没していること。
- ②踏み込み痕などと違ってほぼ真上から水田耕作土を深く掘り込んでいる。
- ③窪み列の覆土にはAs-Bが多量に含まれており、As-B降下後、あまり時間を空けずに掘られ、一気に埋没した可能性がある。
- ④1～3号窪み列の走行方向はほぼ一致する。4号窪み列は走行方向が異なる。
- ⑤南北方向には確認されなかった。
- ⑥4号窪み列は畦畔を破壊している。1～3号窪み列も同様のものか？

特徴の④～⑥を考えると、窪み列が東西畦畔を意識して掘り込まれたようにも見受けられる。実際、4号窪み列は畦畔3を横す形で確認されている。畦畔が崩されてはいないものの、近接している1号窪み列と畦畔6については、1号窪み列の走行方向がN-50°-W、畦畔6の走行方向がN-48°-Wとほぼ一致している。また、畦畔の間隔を見ても、畦畔5と畦畔6のほぼ中間に位置している2・3号窪み列付近に東西畦畔があっても不思議ではなく、こちらも畦畔との関連が窺われる。畦畔と窪み列との関連については、特徴の③である「覆土にAs-Bが多量に含まれておりAs-B降下後あまり時間を空けずに掘られた」という観点からすると、災害後に行われた水田復旧事業に関わる何かである可能性が指摘される。新規の畦畔を造るために火山灰に埋もれた旧畦畔を破壊したものとも考えられたが、再度畦畔を構築したような形跡は調査区壁のセクション等からは認められなかった。おそらく、As-B堆積後の水田耕作土によって攪拌を受けたためとみられる。しかし、仮にこの窪み列が畦畔の復旧事業に関わる何かであったとしても、東西方向の畦のみ掘り込まれているという点については疑問が残る。水田の全面的な復旧であれば、東西畦のみではなく当然南北畦も同様のことを行うはずであるが、今回の調査においては調査範囲の制約から南北畦に関する情報が乏しく、その全体像を把握するには至らなかった。

今後の周辺地域の発掘調査事例によって、As-B堆積後の遺構や、本遺跡で確認された溝跡や窪み列に類する遺構が検出され、只沢地区におけるAs-B堆積後の水田の在り方が明らかになることが望まれる。

主要参考文献

- 高崎市教育委員会 1979 『大八木水田遺跡』高岡市文化財調査報告書第12集
高崎市教育委員会 1998 『高崎市遺跡分布地図—高崎市内遺跡詳細分布調査報告書—』高崎市文化財調査報告書第155集
高崎市教育委員会 2009 『上芝・西金沢遺跡—店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—』高崎市文化財調査報告書第250集
高崎市教育委員会 2009 『下之城・村東遺跡3—共同宅地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—』高崎市文化財調査報告書第252集
高崎市遺跡調査会・高崎市教育委員会 1994 『飯塚西金井遺跡—浅間B軽石埋没水田跡の発掘調査報告書—』
高崎市遺跡調査会 1996 『下小島町近江遺跡—築園調査報告書—』高崎市遺跡調査会報告書第49集
高崎市遺跡調査会 1997 『飯塚大代代遺跡—共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』高崎市遺跡調査会報告書第67集
高崎市史編さん委員会 2000 『新編高崎市史資料編2 原始古代1』高崎市
高崎市史編さん委員会 2000 『新編高崎市史資料編2 原始古代2』高崎市
高崎市史編さん委員会 2003 『新編高崎市史資料編1 原始古代』高崎市
工業普通 1991 『水田の考古学』東京大学出版
高井住弘 2006 『平安時代後期水田耕作の一様相』『工業の考古学』同成社

写 真 图 版



空撮（南東より）



調査区全景（南より）



調査区全景（北より）



調査区南側畦畔（南より）



調査区北側畦畔（南東より）



水口 (南より)



畦畔断ち割り (南より)



1号窪み列 (南東より)



1号窪み列セクション (北西より)



1号溝・2号窪み列 (南東より)



2・3号溝セクション (西より)



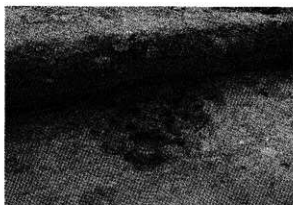
3号窪み列 (南東より)



溝・窪み列セクション (北西より)



4号窪み列（南東より）



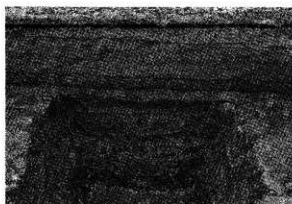
4号窪み列セクション（北西より）



溝・窪み列全景（南西より）



足跡列・耕作痕（南東より）



1号トレンチ基本層序（西より）



1号トレンチAs-B堆積状況（西より）



重機掘削（南より）



作業風景（北西より）

報告書抄録

書名	貝沢・天神遺跡
副書名	宅地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第272集
編著者名	田口 郎 柴田洋孝
編集機関	高崎市教育委員会 〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1 TEL 027-321-1292
発行機関	高崎市教育委員会
発行年月日	平成22年7月30日

遺跡名	所在地	発掘年	面積	方位	経緯	発掘期間	面積	用途
貝沢・天神遺跡	群馬県高崎市 貝沢町宇天神 919番地1ほか	102020	467	36° 20' 33"	139° 01' 14"	2010.04.07 ? 2010.04.19	170 m ²	宅地建設

遺跡名	水田	平安時代	水田区画（畦畔・水口） 溝跡 窪み列	（土師器小片 3条 4条 が水田上層か ら出土）	A s - B 降下以後に掘られた、帯状に広がる窪み列。
貝沢・天神遺跡	水田	平安時代	水田区画（畦畔・水口） 溝跡 窪み列	（土師器小片 3条 4条 が水田上層か ら出土）	A s - B 降下以後に掘られた、帯状に広がる窪み列。

高崎市文化財調査報告書第272集

貝沢・天神遺跡

— 宅地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

平成22年7月23日印刷

平成22年7月30日発行

編集 / 高崎市教育委員会

発行 / 高崎市教育委員会

印刷 / 朝日印刷工業株式会社